

## 評価報告書

(令和5年度 令和5年4月～令和6年3月)

### 社会貢献推進事業評価結果

#### 〈テーマ1 事業方針及び事業計画の設定と反映〉

評価の観点		評価Ⅰ平均(※) ( )内昨年度	判定の留意点	評価Ⅱ(※)
(1)	建学の精神に基づく事業方針・計画の明確化	5.0 (5.0) 「5」7名	建学の精神、ミッション・ビジョンを踏まえた方針であるか	○7名
(2)	中長期的な計画の反映	4.57 (4.57) 「5」4名 「4」3名	事業方針・事業計画が、中長期的な計画を反映しているか	○6名 △1名
(3)	学内外への周知における共通認識の醸成に向けた取り組みの推進	4.57 (4.57) 「5」4名 「4」3名	学生・教職員に周知徹底するための方策が施されているか	○7名
			学外への周知を積極的に展開しているか	○7名

#### 1-1. 「評価の観点」の評価の理由

##### (1) 建学の精神に基づく事業方針・計画の明確化

事業方針及び事業計画は、建学の精神やミッション・ビジョンを踏まえて策定されている。体育・スポーツを通じ豊かな社会や地域づくりに貢献した事業等に取り組んでいる。

##### (2) 中長期的な計画の反映

ランドデザイン及びロードマップから現在の網羅的な状況が理解でき、適切に立案されている。

##### (3) 学内外への周知における共通認識の醸成に向けた取り組みの推進

乳幼児期から高齢期までを対象とした取組の推進・充実及び学内外への広報活動等の充実も明確に計画に位置付け、自己媒体の活用を中心に地域との連携を図っている。

#### 1-2. テーマ1についての総評

「建学の精神」の具現化に向け、時代の変化と多世代間に渡る多種多様なニーズに対して、大学の教育・研究の成果及び人的・知的財産を還元され、着実な実践を展開できる事業方針と事業計画になっている。

中長期的な計画の反映については、部分的に計画を反映できていない点があるものの評価の観点を達成するための取り組みとして評価できる。

具体的な取り組みを多様な媒体を活用し、学生表彰等で学生たちの関心意欲を引き出す工夫をしていることも良い。引き続き、建学の精神、ミッション・ビジョンを踏まえた事業展開を期待する。

### 1-3. 改善・向上・充実のためのご意見

事業方針・事業計画の基になる「社会貢献及び社会連携に関する基本方針」や中期計画においても学内、地域、社会の状況を踏まえて適宜見直す必要がある。また、中期計画の各項目と取組の相関についてツリー化し、数値目標を設定することで、評価軸が明確化される。

部活動顧問や部活動等の所属のない学生に対する働きかけをより一層行い、様々な学生がボランティア参加されることが望ましい。

大学のホームページ内の社会貢献事業については、トップページからの階層が深いところにあり、若干わかりづらい。ボランティアの派遣依頼についても、学生ボランティアの活動事例などが紹介されていると依頼もしやすく、実績に繋がっていくと考えられる。

### 〈テーマ2 地域志向の教育課程編成と実践〉

評価の観点		評価Ⅰ平均(※) ( )内昨年度	判定の留意点	評価Ⅱ(※)
(1)	地域志向の人材育成と 貢献活動に繋がる教育 課程の編成	4.71 (4.57) 「5」6名 「4」1名	地域の課題解決に資する取 組みを推進することの意義を 理解させる教育内容が設定さ れているか	○7名
(2)	ボランティア活動の推 進と人材育成への取り 組みの充実	4.42 (4.71) 「5」3名 「4」4名	地域の課題解決に資する取 組みに学生が参画する機会を 設けているか	○7名

### 2-1. 「評価の観点」の評価の理由

#### (1) 地域志向の人材育成と貢献活動に繋がる教育課程の編成

大学全体として地域との関係を理解するための科目を設定し、カリキュラム編成されている。CSC資格制度については、大学独自の資格制度として充実を図っており、各自治体との現在国が主導する教員の働き方改革に大きく寄与できるもので、今後の実績と検証に期待したい。しかし、資格取得に向け学生への説明機会も設けているが、対象学部の入学生定員、収容定員と比較し、決して多いとはいえないように見受けられた。

#### (2) ボランティア活動の推進と人材育成への取り組みの充実

ボランティア活動についても、概ね昨年度同様の活動規模であり、委託事業の関連で新たな実績が確認できた。

### 2-2. テーマ2についての総評

ボランティア活動等の学生参加数は、著しく増加していないが、日体大スポーツフェスタへの

学生スタッフ募集や各取り組みの報告を学生に還元するなど、学生時代にさまざまな社会とのつながりを経験することの必要性をしっかりと伝えていることは評価できる。

小中学校等において、常態的に指導補助員や支援員といった人手不足が深刻な問題であるが、教育現場としての質の担保を行うことも含め、検証されることを期待する。児童スポーツ教育学部においても「運動部活動指導サポーター」「児童体育活動サポーター」「幼児運動遊びサポーター」がスタートしたため、プレ・ゴールデンエイジ期を含むゴールデンエイジ期を対象としたCSC資格制度の充実を図ったことは興味深く、教育課程編成の面では評価できる。

派遣人数の増減はあるもののコロナ禍の影響を受けながらも様々な機会の創出に努めておられることや地域からの依頼にも応えられ工夫されている。

## 2-3. 改善・向上・充実のためのご意見

新たに策定した中期計画でも「CSC制度の検証に基づくブラッシュアップ」という取組が掲げられている。CSC制度に限らず、教育課程編成全体についても、今後の学校部活動の在り方や社会的な変化などを反映し、検証と改善のプロセスがこれまで以上に回っていくことを期待する。

社会活動参加登録者と活動者の関係性が可視化されていないため、実際に活動している登録者がどの程度いるのか不明瞭であるとともに、活動者に偏りがある可能性も否定できない。実際に活動しているが少なくなっていることによる社会貢献活動参加登録者数の減少であれば、より魅力的な活動場所の開拓や他機関との密接な連携が望まれる。また、一人当たりの活動回数や活動内容別の満足度なども分析することで、登録者の更なる増加のヒントを見いだせる可能性があると考えられる。

### 〈テーマ3 地域の課題解決に向けた効果的なプログラムの実施と貢献活動の推進〉

評価の観点		評価Ⅰ平均(※) ( )内昨年度	判定の留意点	評価Ⅱ(※)
(1)	地域の課題解決に繋がる実効性のあるプログラムの開発	4.71 (4.71) 「5」5名 「4」2名	研究機関等と連携して地域課題を抽出し、その研究成果をプログラム開発に生かしているか	○7名
			地域社会からの要請を取り入れたプログラム開発を推進しているか	○5名 △2名
(2)	人的・物的資源を活かした公開講座等の実施	4.86 (4.86) 「5」6名 「4」1名	大学が有する人材等の資源を活用して、地域の課題解決に資する公開講座等を開講しているか	○7名
(3)	地域の美化、防災力向上への取り組みの推進	4.43 (4.71) 「5」4名 「4」2名 「3」1名	地域の美化に努めるとともに、地域社会と連携して防災力の向上に努めているか	○6名 △1名

(4)	地方自治体との連携強化の支援	4.71 (4.86) 「5」5名 「4」2名	学校法人が協定を結ぶ自治体と、地域の体育・スポーツ及び健康づくりの分野で相互の振興を図る活動に対する支援を行っているか	○7名
-----	----------------	-------------------------------	---	-----

### 3-1. 各「評価の観点」の理由

#### (1) 地域の課題解決に繋がる実効性のあるプログラムの開発

地域の課題解決に向けて、体力測定を継続的に実施し、運営に様々な学生が関わったことは教育的な成果である。また、学術的な研究の結果を掲出することにより、運動への意識向上につなげるなど、強みを生かした取組を行っていることが確認できた。

#### (2) 人的・物的資源を活かした公開講座等の実施

公開講座等は、日体大の特色を活かした人材活用がされており、施設開放を含めて、大学が有する資源を有効に活用している。

公開講座においては、近隣自治体が掲げるスポーツ振興、スポーツ推進計画を踏まえて、地域の課題解決に資する企画、各学部の特性を活かした企画が応募、採択されたことは大きな成果である。

#### (3) 地域の美化、防災力向上への取り組みの推進

地域では若い人の力を欲しており、寮や合宿所で生活している学生が多数いるにも関わらず、地域での美化活動に反映されていないと感じる。また、防災活動に関しては、もう少し工夫ができるのではないかと感じる。それには大学が地域側のニーズをしっかりとキャッチする方法を明確化することと、地域側もそのニーズを共に語り合う場が必要であると感じる。

#### (4) 地方自治体との連携強化の支援

自治体との協定に基づき日体大が持つ強みを生かした各種事業を継続的に実施している。

### 3-2. テーマ3についての総評

地域住民の健康管理への意識向上につながる体力測定の実施やスポーツフェスタ、公開講座など様々な事業を展開しており、地域住民を対象にスポーツや運動、体育がより身近に感じ、さらに関心が高まっていることは評価できる。

地域美化や防災力向上への取組は、大学の存在が地域の安心にもつながる期待も高く、また、学生がボランティアを行うきっかけとしても取り組みやすいと思われ、継続的な活動を期待する。

運動部活動においては、指導者の意向が大きく影響するため、一人でも多くの監督・コーチが競技力向上には人格形成が不可欠であるという認識を持ち、学生たちに多様な社会貢献活動に積極的参加を促すような状況になると良い。

### 3-3. 改善・向上・充実のためのご意見

地域住民のニーズを把握することは困難であると思われるが、地域の要望・ニーズを取得する方法を研究するとともに、日本体育大学の専門性や魅力を効果的に発信することにより、新たなニーズの発掘に繋がられることを期待する。また、抽選のイベントについては、機会拡充を検討してほしい。

公開講座に関し、令和6年度の採択事業一覧を見る限り、昨年度からの継続企画が多いように見受けられる。人気講座を継続することも重要と考える一方、新たな地域住民との交流創出のためにも、新たな課題解決のための講座を開設する、共通する地域課題であれば2校舎で実施する、などの工夫も検討していただきたい。また、公開講座募集のテーマである「子どもの体力向上」「高齢者の運動・スポーツの推進」は国の在り方に大きな影響を及ぼすため、重点化が望まれる。

今後、さらなる社会貢献を進めるうえで、締結自治体数や実施事業数などの目標を立て、活動を進めていくことも検討されたい。

#### (※)評価について

##### 1. 評価Ⅰについて

「評価Ⅱ」を踏まえ、基準・テーマを達成するための取り組みとして、評価の観点に対応した内容であるかどうか、委員が以下のとおり5段階で総合的に評価したものの平均値を記載している。

評価	内容
5	評価の観点を達成するための取り組みとして、十分にふさわしい内容であると評価できる。
4	評価の観点を達成するための取り組みとして評価できる。
3	評価の観点を達成するためにはさらなる努力が必要である。
2	評価の観点を達成するための取り組みとしてはふさわしいと言えない。
1	まったく対応できていない。

##### 2. 評価Ⅱについて

評価の観点から、その判定にあたっての留意点の内容が適切に対応できていると判断できる場合は「○」、対応していないと判断される場合は「×」、どちらともいえない場合は「△」として、委員が評価した○×△の数を記載している。

#### 《評価委員》 ※敬称略

浅野康、川越孝洋、熊坂俊博、栄裕美、戸塚昌行、藤野純、松井慎一 以上7名